

葬祭業者名	株式会社あおき
所在地	福島県白河市大工町33
調査日	2018年1月24日

花祭壇の開始時期と近況

花祭壇の開始時期	昭和47年頃から
花祭壇の種類	決まっていない（利用者の要望次第）
花祭壇の利用者数	年間300組
花祭壇と白木祭壇の割合	花祭壇：白木祭壇 = 5：5
花祭壇は、家族葬と一般葬どちらが多いか	一般葬

- ✓ 「花祭壇と白木祭壇の割合」の数値に関して、白木祭壇と生花を組み合わせた祭壇も含めて「花祭壇」として回答しています。
- ✓ 花でお送りしたいという自分たちの考えや、利用者からの要望、業界でも増えてきたため、花祭壇を始めました。白木祭壇と比べると、大きさ、幅、高さなどに自由度が高く、式場の広さに応じた設定が可能である点も、花祭壇のメリットです。

近年の花祭壇の傾向

- ✓ 家族葬はお金がかからないというイメージを持たれやすいのに対して、花祭壇はお金がかかるため、一般葬で用いられることが多いです。
- ✓ 花祭壇は、自由度の高さから、遺族の意向に沿ったものを作ることで、喜ばれることがあるほか、故人の好きな花を使えるため、満足度が高いようです。
- ✓ 葬儀で用いる花の種類については、昔のように、トゲがあるからバラは使ってはならないということや、赤い花は使ってはならないというタブーがなくなってきたことも、花祭壇の自由度を高めています。
- ✓ 生花祭壇は今後、一般化すると思うが、全般的に高額となりやすく、設置も時間がかかります。このため、当社では白木と組み合わせることでより安い価格帯での花祭壇を提供しています。
- ✓ 白木祭壇の周辺には造花を併用するなどしています。造花の使用率は低いです。生花と比較して作業量が少ないというメリットがあるほか、造花自体の品質も上がってきています。生花を用いた花祭壇が今後一般化することを想定したうえで、お客様のみなならず当社にとっても費用の増加が予想されるため、原価率をいかに抑えて作業効率を上げるかなど、今後の課題は多いです。

花祭壇で用いる花について

主に使用する花（色）	キク（白）、ユリ（白）、トルコギキョウ（白、紫）
使用する花の長さ	50～80cm（基本長は70cm）
使用する花の形状	茎と花がまっすぐになっているもの
好まれる花	キク、ユリ、ピンボンマム、トルコギキョウ
好まれる色	白、黄、ピンク、紫
使用する花の産地	メインは国産（愛知県産） サブは輸入（中国産）
産地の割合	国産：輸入 = 7：3
仕入れの方法	系列の中にある生花店を介して調達
標準的な花祭壇で使う花の量	5種類
標準的な花祭壇で使う花の本数	100～500本
使用する花に求めるもので、特に重視するもの	長さ、色、日持ち性、価格

花祭壇作りについて

花祭壇に対する考え方について

- ✓ 白木祭壇は、昔は葬儀の都度、故人様の専用として一つ一つ作られてきましたが、今はそのようなことはしません。生花を使う花祭壇は、一回だけしか使わず、故人様のために専用で作るものであり、その意味では昔の白木祭壇の考え方に近いと思います。また、亡くなった方をお送りするのに、花を使ってお送りするというのが人間らしさであると考えてます。

作り方のポイント

- ✓ 白木と生花を同時使用し、お客様の求めるものや価格設定などにマッチしたものを提供することを心掛けています。
- ✓ 花祭壇の作り方は、業界の講習会に参加したり、先進地で様子を見学したりして勉強するほか、先輩職員が後輩職員に教えています。

使う花について

- ✓ 色は、白が基本ですが、女性の場合などは、ピンクなども用いて柔らかさを演出することもあります。

使う花の産地について

- ✓ 生花の調達にあたっては、国内の産地や、国産であることについてはこだわりのないが、市場に出ているものは国産が多く、輸入物がほとんど届かないために、結果的に国産の花がメインになっています。
- ✓ パステルカラーなどを入れたい場合には洋花をとくに用い、輸入物を使うこともあります。
- ✓ 安定的に調達できれば、農家から直接購入したり卸・仲卸から仕入れることも検討対象となりますが、現状では会社系列の生花店を介して仕入れることで安定的に生花を確保できています。

